

平将門退治圖會九



13  
3295  
9





門へ13  
3245  
9

平將門退治圖會八

起天慶四年五月  
至大曆元年九月  
都而七年也

第卅一 伊賀壽稻村等戦死

附 純友從類誅伏也

善も積たまりむか名な孤こ敵てき小こ足あ比ひ悪あくも積たまりむか身みと亡なむか小こ足あ比ひ粵えつ小こ伊い豫よ豫よ  
 採と純じゆん友ともへ私し敵てき小こ耽たんり七しち朝あ恩おんを顧かへむ。遂す威いを憑たもむ。氏うぢ人ひとを虐あむ。神かみ明あ佛ぶつ像ざうの  
 冥みやう監かん小こ背せいき。軍ぐん後ご凍とうまふ。あゝ孫まごども。安やす室むろが昔むかしをつ用もちひむ。風かぜ波なみを恃たもむ。身みを  
 急いそ情じやうであんん小この太た車ぐるまをあんん出です。味あじ方かたの破やぶれとあり。及およぶれど。まゝ。僥さう倖じやう小こ身みの  
 恙あやも。稻いな村むら平へい六ろくが筋すぢり。小こ長ちやう府ふの城しろをあんん落おちて。伊い賀が壽じゆ太た師し當あ下げの  
 味あじ方かたの軍ぐん兵へい敵てき多おほく。氷こほり火かの為ため小こ亡なび。失なく。船ふねも大おほく。燒やけ失なく。武ぶ具ぐも恙あやも。海うみ  
 底そこ小こ沈しん没ぼつす。累かさね勢せいをあんん身みをあんん當あ家けの運うんも傾かたむき。何なに時ときも命いのち存ぞん生せいた。陸りく東とうの

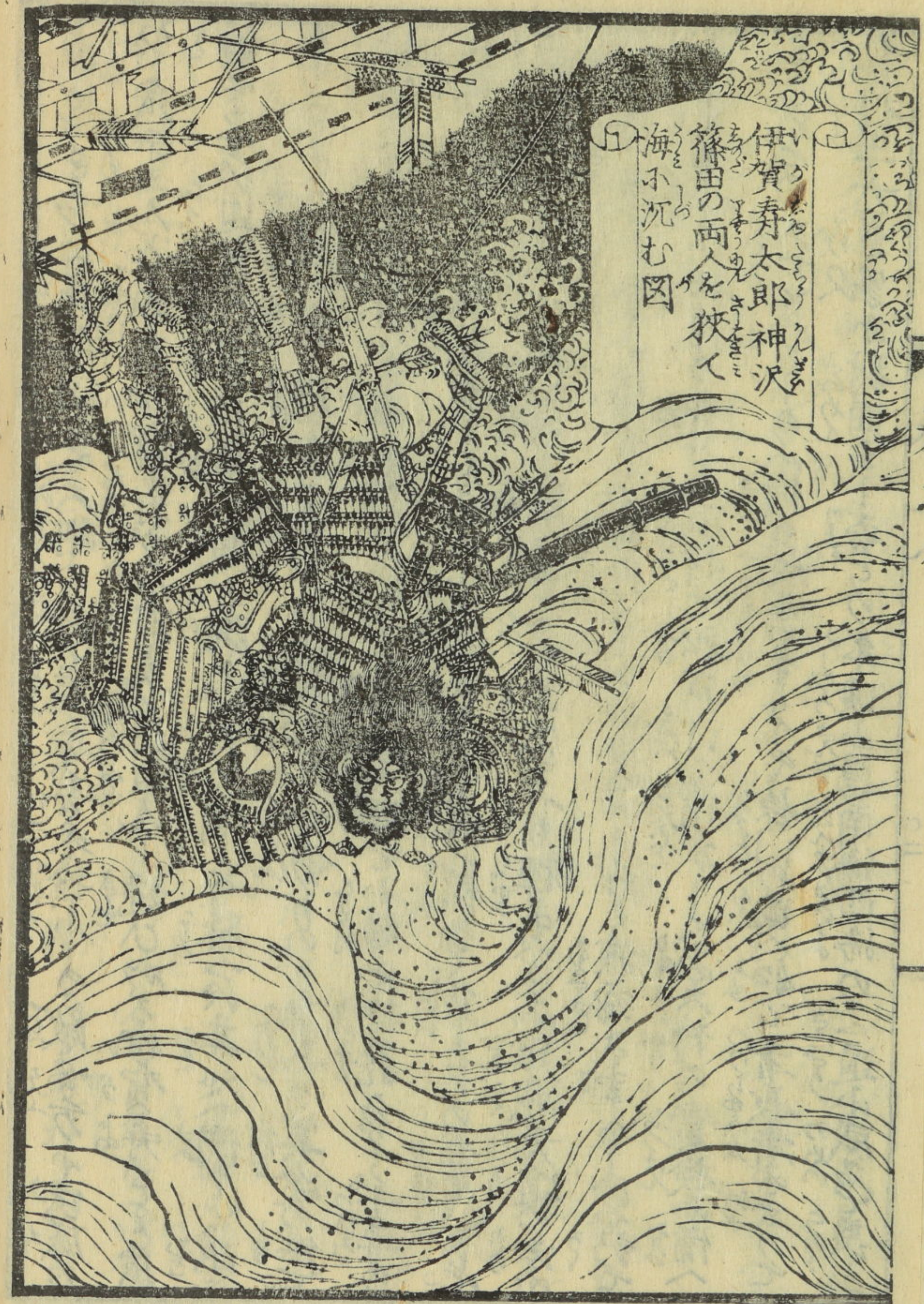
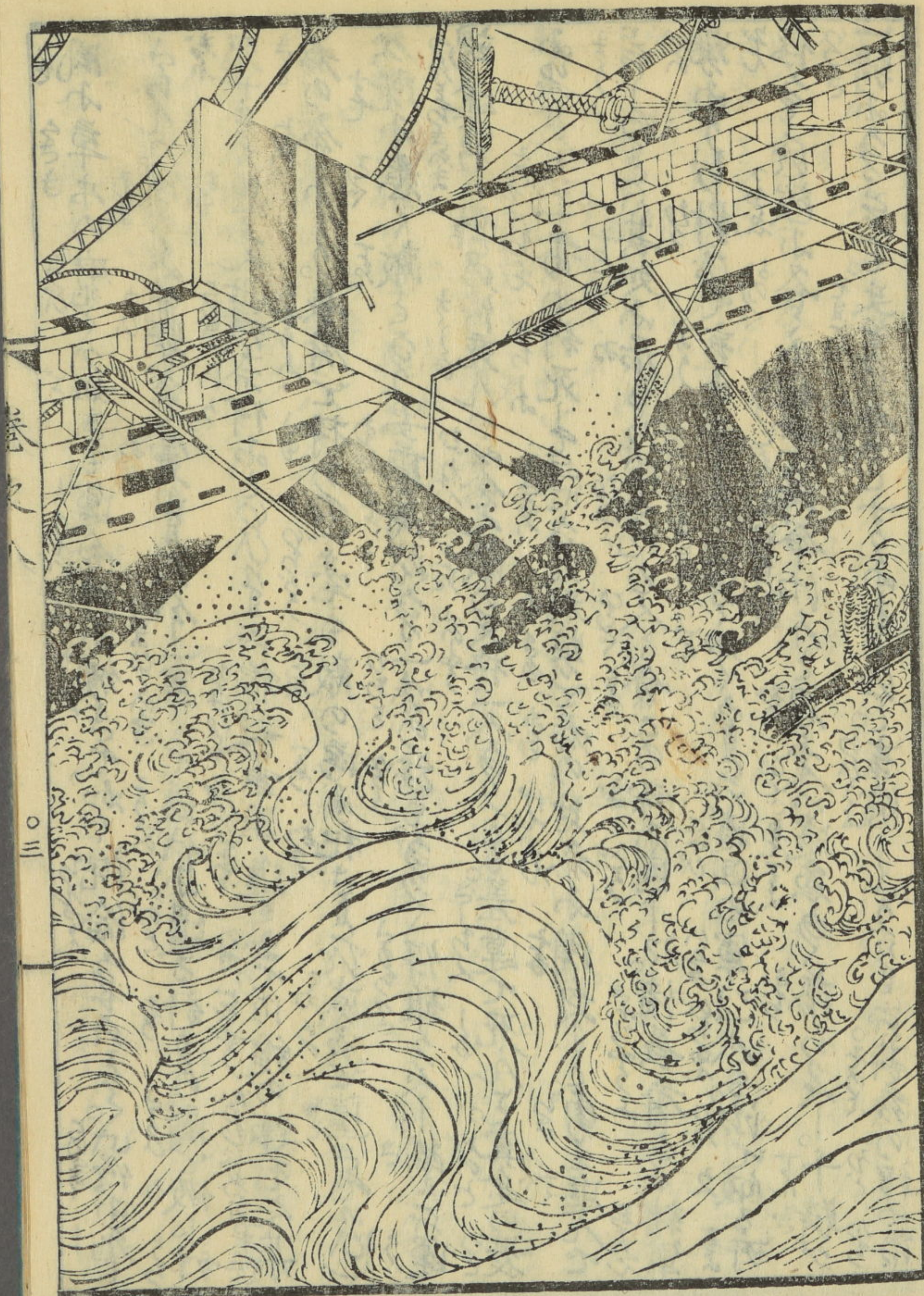
大正十年八月廿九日寄  
本大學出版部贈



特におもひくゞぞ 猶もくも 逃申吟て 難人原のよふ懸り 生船で 曝さんより 討  
 死せむと 覚悟を 究め 頼て 例の大を 力せ 見うて 敵の 船へ 乗後るよと せん  
 當る 儀 傍 倅 切らる。 然と ぶ 勇を 進ん ぶ 官軍 由 是 ぐ 為 小 船 拵 たり と 揖 旗  
 直一 續て 操つて 逃さん との 志 あり 処 せ 丈六 丈 隔て 方 船 へ 内り と 死 後 なる  
 更 人 間 業 と 見 え ば 春 の 花 檀 小 戯 方 胡 蝶 由 斯 也 と思 ふ なる 此 小 舟 於 て  
 伊 賀 寿 為 小 官 軍 數 討 せ け 除 り 小 舟 痛 く 戦 ひ け 大 太 刀 由 佩 刀 由  
 浮 元 より 打 折 り 及 び 大 太 刀 馳 廻 り 綿 嚙 草 摺 籠 とい へ ば 舟 當 り  
 次 弟 小 引 帆 引 寄 せ せ 海 底 へ 破 羅 裡 くと 扱 ち ち 後 小 若 徒 の 團 の  
 住 人 神 沢 九 郎 照 宣 と 條 田 孫 五 郎 義 宗 各 大 剛 の 團 あり 先 づ 伊 賀  
 寿 が 人 由 血 氣 小 働 くと 観 せ 示 一 合 せ 遠 奴 物 くと 働 くと 鬼 神 あり 由

北陸道 大剛の 名 取 手 来 擒 小 舟 敵 味 方 小 威 威 の  
 伊 賀 寿 為 小 官 軍 數 討 せ け 除 り 小 舟 痛 く 戦 ひ け 大 太 刀 由 佩 刀 由  
 浮 元 より 打 折 り 及 び 大 太 刀 馳 廻 り 綿 嚙 草 摺 籠 とい へ ば 舟 當 り  
 次 弟 小 引 帆 引 寄 せ せ 海 底 へ 破 羅 裡 くと 扱 ち ち 後 小 若 徒 の 團 の  
 住 人 神 沢 九 郎 照 宣 と 條 田 孫 五 郎 義 宗 各 大 剛 の 團 あり 先 づ 伊 賀  
 寿 が 人 由 血 氣 小 働 くと 観 せ 示 一 合 せ 遠 奴 物 くと 働 くと 鬼 神 あり 由  
 朝 家 小 治 元 春 朝 野 領 賜 以 芳 名 末 代 末 也 輝 光 小 孫 賊 无 道 の 孝 小  
 慶 幸 春 實 小 討 死 の 首 名 本 持 せ 船 渡 江 へ 浦 原 一 七 丈 大 將 の 實 檢 小 備 へ  
 稻 村 平 六 景 家 小 討 面 面 一 番 一 年 頃 山 陽 南 海 西 海 の 二 道 小 威 威 取 り





伊賀寿太郎神沢  
篠田の両人を救く  
海不沈む凶



風小早木の麻死くが如きも連命終ふ傾きそかく沈淪るをくくは怪小死  
 さらんは餘り小甲斐多覺ゆま今一軍の後代小遺る計りの關を徹し討  
 死せまう思ふに此様奈何ゆといひはむ六指村景家進と出て山籠の煙を人某  
 君の命あり。長府を待ちて一毫も敵の爲小犯さむに威を墮させし  
 既小悉く敵とあり。要緊周防の一味の族も多し保難くす。然るに運  
 竭途窮りぬ。怪死ん。突急敵の大將入るも差違て死んと。眞途の畏  
 小思ふ。其一番小討死して二心あり形勢と君の見衆小備ふと勇進んで  
 其のしむ其処小居るに宗茂の入る。食の強小崗下。備長府あり諸軍  
 勢ありち討ひて言を中へ今関を如くあるは遠回の軍一人も活て飯所  
 存るべ故小々々も如此心得命活んと思ふ人の遠慮多し落るべし。千騎が  
 一騎あるをそ由史等紙屋又とすふあふと。言渡しうらむに其敵の程小格

失せ。千五百船跡を遺りける。然る直小打まそ。六月六日長府と出て筑紫の  
 関へといひより。爰に六孫王經基の宿願のたましく箱崎八幡宮小詣り  
 奉幣傳終て神主ある。中區宿給まらり出駄餉を獻卜大將緒卒小由史等  
 下し重る時小呈り。濱面小居る難人とも。近來けく言を中へ。賊船と覺  
 多く七八十艘順風小帆をあげて此方と舟を来りい山準備あるべうの如く言  
 ち小けし。經基王維うその容を見て急と仰ふよ。津前小在。大宅  
 太師光雅の衝と迫出て松原の外より候ひ候は。飯り来りて賊船小給ま  
 る。見えてい。其首七八十艘あるべれど。食小舟をえのむ。勢はさむをゆへに  
 とのめ関て若殿原へあはさとの津へ寄より。討張さむと。言を中へ。長  
 小育切て威威の如く示さんと。その準備とるす。後獲のひて經基王宣ふ中。  
 僅ある國兵とてその大敵小馳せ向ふ。いづま必死の覚悟とす。少勢



ありと悔りて取圍え討んとせむ。却てこよる死過あり。元來敵も入智るを  
 荒島の援兵といひのりけしむ。その場で會戦一人の功名も成さんとせむ。二陣  
 之陣入り入り智りて戦ふ程あり。勞して自然と攻むる敵とてさうん必せり。今  
 らの場の戦ひは兵書も所習弱く剛と制す方の術計あり。努め早りて死兵の  
 為らぬ過するとあるとて必と堅く制しあひしむ。然るの理も感服とて隊伍成  
 され陣さく。今や逢と候苑あり。純友その如く博多の津へ寄ると謀り  
 探で漕出。六月六日の午刻ふ。この如く来りし。遂にえまは松原小。白旗も十流れ  
 風も靡し。其勢九之四万。雲霞のどくも屯し。是ぞいづく経基父子の陣  
 の所あり。ん望むと搦て直と一教も箱崎の津へ船を漕穿ると等一矢の  
 一矢も射りむむと先陣も進む。稲村平六も勢も百餘騎と率て三三三  
 斬てから。此方の豫て大将の下知と嚴守りし。故意とも痛く戦ひ返く

支えをいり退き。ま二陣の勢入り。是もまはれめの如く。或ひは敵と遠  
 や。矢も射すむ。或ひは死にむ。人馬の是と怒り。敵と懸念の勝負の  
 做さば。稲村のこも。敵の挙動も。箇計り多。勢の其中も。敵と  
 知り。食士のあはれ。敵の純友が恩顧の武士。稲村平六。累家あり。今日こそ  
 敵も。首と殺しんと来りし。誰あつて向ふ者あり。遠く夫のの時を移す。  
 敵も。小勞して取圍と討んの計畧。比真未練の臆病。武士も勇猛。敵の武  
 士の討死する容と。殺せんと。いひは頓て上帯解き。遣て脱て。傍へ投捨。腹一文  
 ト。字も捨つて。太刀の鋒と。いひは。遂に。落し。貫く。死し。後て。一番小  
 討死せん。といひ。喜葉も。一息差む。斯潔く死し。けり。敵の味方も。死に  
 感思せぬ。いあり。い。是ぞ。是ぞ。其の兵。八十餘人。突違へく。一人も  
 残らぬ。死でけり。続て。馳出る。二陣の勢。純友が息男あり。伊豫太郎有儀と



その身より次所純年馬の鼻と双べく馳出し。自勝の敵あり目よりけむを  
 馬助満仲がみ千餘騎を控へる。その真中へ突て入る。官軍陣破みし  
 分て或ひの周ま或ひの圍を。身は愛小懸下物と守り。進退指揮は流ひと  
 こと孤防ぎ戦入りとふ心の後後小勇むとりども。元來衆寡敵せぬの  
 多く守りまの兵多し。重造小肩と引と戦ふくもあつむとのへど始り長  
 府と守り時一里の引へまばと互小物せし初小和て汗血疲る如しとのども  
 脈む亂色多く縦横小切控まきと其身全没あつむと各重重負て或は遠へ  
 或ひの敵と引組んて討り多る。且六兄弟は是と視て情と胸と引退と道  
 下下逃下と逃ふ敵と御黨と騎とて返下。雲時防矢と射けりつと小官軍是か  
 隔り且猶後ありけるその裡小兄弟の和ふうち音遠の沖へ漕出て頻に互小  
 連へ波と開きて千尋の底へ跳り入てを失ふける。是敵小首と波まが泉木小懸

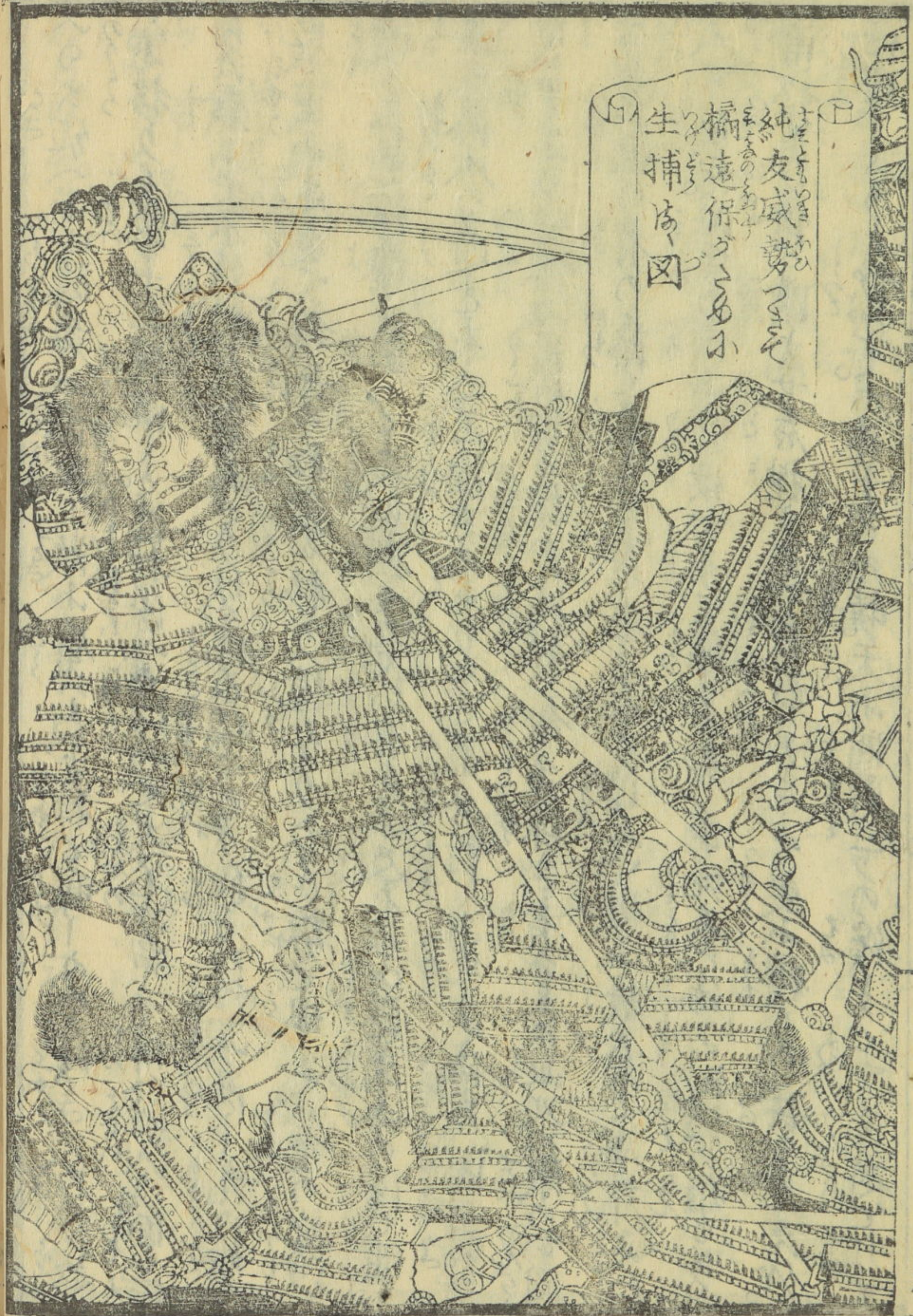
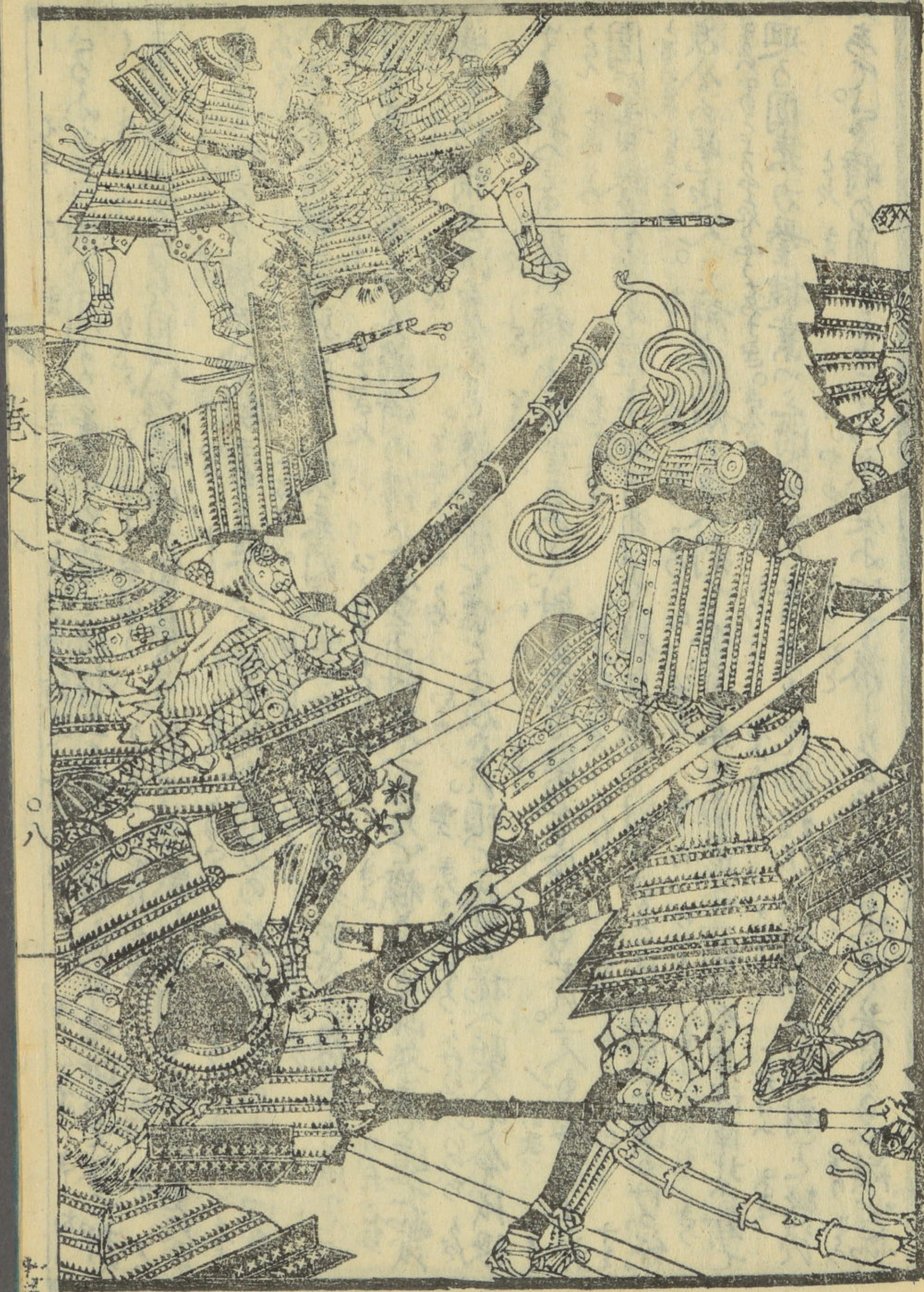
りるべしと。そ城和思ふの計らひんとと健利ゆもま。哀ま之徳而宗統の人も  
 思ひくの働きと或ひの敵と引組七波濤の底小没のめは六突遠へ死す  
 あり。或ひの數箇所の麻と負ひ腹を切て失するもあつて今絶友小絶ふの  
 十二歳ある童太九とて。絶友が妻の子小。最期の供せんとして。控へる軍兵百  
 騎小ありける。まの剛ある絶友の猶小味方の討るを視て。何とあり物悲  
 しく心細くあるふ就ておつむとぬ事と考へる。大儀と思ひま東國の將は  
 牒下合せし始めより。都て意の如くあつむとる。斯ては後ての計畧も整  
 りんと思ふふ甲斐多る。東國の軍破き平親王の一族胎類は悉く亡びふ  
 るほど。猶吾軍へ強くと。山陽南海西海小威名と裏しつと。身も運の極  
 とひいり多る。一族前後食討して天下悉く敵とあり。死すべき時に至ると  
 りども。是ふなる童太九は。總角のこめと。知りしる人を稀ありふ。先頃



伊豫の國を切つ時、重太九が母の國の住人栗山將監入道、富河が女児を  
重太九が身の上、深くも按卜頼りあり、消息小ものひ、敏ぬ將監入道、母方  
の祖父之輩で、跡継ふ處へ死なむと、一先伊豫へ遁じ歸り、重太九を託す。宿の  
出家の身ともあり、遁じつづくる遁まんと、思ふ心ぞ、淡増き、残る軍勢、命を  
穿せよとのへ下知あり、めと堅意で、飲を候まじと、時刻俵で、沙汰あけまじ。  
或嶋み多、秀之とのいのみ、純友の前へ出、ちや人も遣りあり、討死し、  
よとの由、最期忠告せし、秀之の首賜り、海底へ沈め、敵の身へ、  
やうふ計りて、由供はり、ゆんと、潔く、淡増き、純友頼み、回春あり、傍  
あり、重太九どうち、復やて、今思ふ心中の、物、終らば、その船伊豫  
路で、舟で、急ぎ、浦度せうとあり、なむ、秀之、同で、興て、醒し、かゝ、不覺人と  
知らび、て、今ま、も、大將軍と、冊さ、つる、を、遺骸あり、その、後、あ、は、伊豫

へ、由、依、へ、心、隨意、小、落、失、く、敵、小、虜、へ、生、れ、曝、し、ぬ、人、と、吐、き、つ、己、れ、が、船、へ  
の、つ、り、り、多、勢、十、二、騎、混、と、波、打、渡、へ、漕、つ、け、て、大、宅、次、弟、が、陣、へ、馳、入、り、面、も、振  
り、に、戦、つ、て、不、殘、討、死、を、あ、り、け、る、純、友、頼、て、己、が、船、を、旗、吹、流、し、元、の、如、く、  
嚴重、小、速、意、で、雜、兵、の、船、へ、乘、移、り、僅、む、り、の、多、勢、を、懼、し、て、八、重、の、以、路、で、  
漕、つ、り、て、伊、豫、の、國、へ、志、に、斯、て、九、及、の、言、を、よ、及、木、氏、山、陽、南、海、の、津、浦、に、  
着、も、落、人、の、道、を、来、て、上、陸、す、る、事、り、也、と、軍、兵、斬、り、小、毛、一、七、海、岸、圍、み、固、め、  
る、中、小、の、伊、豫、の、目、代、り、橋、の、遠、保、の、智、急、深、き、者、あり、と、此、處、に、敵、の、本、國、  
あり、宗、佐、の、者、の、落、て、来、る、を、り、わ、わ、ん、と、隊、分、て、倣、し、故意、と、海、岸、め、  
人、と、並、む、此、方、の、國、小、介、候、と、着、て、淡、増、も、知、り、純、友、へ、海、上、風、波、の、難、も、多、  
漸、に、伊、豫、へ、漕、よ、せ、右、親、見、六、四、方、寂、莫、と、て、更、も、護、り、の、兵、も、見、え、ば、  
仕、澄、し、つ、と、と、飲、び、て、六、月、十、日、の、曉、天、小、同、國、三、ツ、の、濱、より、上、り、間、道、を、打、せ





純友威勢つとて  
桶遠保がとも小  
生捕は凶

巻之六



つる小逢の樹の間より粟水の旗一流押きて勢の程二百騎此方にて押  
来る給ふ方多き月代の遠保軍兵あり。箇可の敵打破れり。通る易なる  
ありしに死なず。勢百十騎勇に進んで押す所不敵方の数法此方の山陰に方  
八方より百騎二百騎混と馳来り。三三三小推取来純友が勢を以て  
建も死ぬ命あり。箱崎の津で人並射死す死に穢るも。此処まで進んで  
曝む。朽惜き次第あり。後物腰を懐とも及ぶ。傾て降と掃へ馳入て命限  
り。小戦へども敵の稍小折重あり。射も突も傳ともせん。入も陥さ。把  
圍で責撃あり。小僅半响可あり。賊兵悉く討たさ。只六騎を遺りける。純  
友公の是近人と群が敵の中へ割て入り。日素の勇威一倍して東西南北斬て  
廻る。固来力量捷業の道。並の者あり。死物程ひの働き。敵討て終は  
あて。時の間小千二騎失度小切て落し。今も追はる者あり。濛と掃

今射蒐るの。爰小橋遠保の先途の船等と雲人。生捕おせり。此の  
主の射はる。馬の平頭大腹章服多し。斬擇まば射備あり。了得の  
駿足ありとのども。又箇所の深穽小覺し。純友今い歩み。あて。後  
小切捲りて敵数多し。射も其の金銀あり。これ今も敵箇所の深穽  
負ひて後方を見ま。射蹟さ。即堂四騎食討。刺へ重太九。捕と多  
繰繰小わり。敵小牽き。注成見て。丸の中。心も。乱と。通ぬ。取戻し。  
帯小懸て。其後小腹を切らんと。大と。度げ。重太九。逆て。敵の得。と  
押取撲き。前後左右より組む。蒐る。心。得。と。捨。あ。間。小。兜。も。落。て。大。重。と  
あり。澤。身。より。流。る。血。汐。の。瘡。は。小。入。り。眼。小。深。く。働。き。自。在。を。と。れ。見。お  
生。虜。と。し。重。太。九。と。候。小。遠。保。が。帯。へ。牽。る。遠。保。具。小。足。檢。み。明。日。都。へ  
送。る。と。し。純。友。父。子。一。間。あ。り。折。へ。押。籠。り。た。う。し。頃。六。月。上。旬。と。願。熱



其如くろろ小済に痛と堪ぐく声と放りて終歎嗟苦しくと叫びけり。竟小  
その境方ねひ死もぞ死しふけ。是と見ふける重太九が心裡的遺方なま  
續る小洞もあるべし。斯てその明の月純友が首と斬り。その他の首と捕ま  
都へ登せさうけり。直小重太九云條河原をそ願てけり。首も巻く獄  
門もぞ懸らまける。嗚咽涙増まらる。西復載へ天の徳うらとどの。日月不忠の  
者と照さまむ。山に不義の馬と容るとま。竟小一曾置祈り。終羅の街小  
尸と曝し。二魄六魄何方より取せん。勇めく禮多けと必乱ると聖人の  
初と思ひあうけり。

附ての純友が泰山栗山河原の恨を報ひんとて。多勢を率し打出  
うらうら福多遠保が軍小純のひ千夏万化の智徳と盡し。南の砥成  
傲まるとのへども。腹寡敵せんとく竟小討る。源家小物さうら。故ふは戦て

具小源を周て着官小筋の

第卅二 諸大將既浴勸賞

附 藤原忠文卒去并辨

再説六孫王經基の箱崎の軍小打勝あひ。生捕討死の首ども。勿論海中小  
況し。もぞ船と入とて探させらま。同筋の津小陣と張て。實檢とぞ返られ  
けり。先純友が息男ある。伊豫太郎有信同次郎純年。着狭は純友と佐  
前司純春伊三九と名と。稲村平六景家成鷹と名。秀之島村又と名。源  
員村尾跡四郎。関屋と名。金剛左衛門入道同九郎知盈。其他一族は  
廿二十六人。松原小竹依と。一と小斬掛け。然とどの首領とる。純友が首の  
見えざる。六を斬り。入觸らま。尋ね求めらま。うける小伊豫國小あひく。  
橋の遠保と。小討取らうと。注進あま。斯て。賊徒悉く。亡び。矢ねと飲び



のひ猶殘黨を探らん處。大將太宰府小返るあり。是より簡使者をきて  
 賊徒蹤跡のより消息を奏聞す。民の責を償ひ或ひは神社佛閣の破壊  
 修造す。宗像箱崎及び大小の神社へ賊徒邊沓の奉幣を倣し方端修終小  
 けとて同年七月十日筑前を發しあり。同八月七日筑前小凱陣あり。此行表  
 殊小花明を列と礼まげ打せらる。むと小。路次の見物左左不並居て。こゝを  
 ぞと留へける。斯て同月十六日。陣時の節會ひを軍功の諸大將及び諸國の  
 武士を勅賞せしむる。大將軍左左將小野好古朝臣を。參議小澤を。侍中  
 國を賜ふ。六孫王後基の四位下太宰大貳小補任せり。息男左馬助滿仲の  
 其功殊小枝君幸え。後四位上行左馬權頭兼伊豫守小佐下。左左衛門尉  
 度。大藏左春實へ備前攝守とある。箕田は。武藏守。加藤重光。豊後  
 守。其他軍功の精粗小よ。忠の深小淺の別。官位左國を賜ふ。各

その差あり。このども。愈々く恩賞の由沙汰あり。諸人眉目と絶け。其中小  
 春議右衛門督藤原忠文の。征西將軍の任命と蒙り。既小打立あり。このども。  
 西海平流あり。用て備後の鞆より寒々と。帰りよりあり。六雅あり。其旁と。  
 終する者あり。右大將師補郷山父忠平公小對り。その右衛門督忠文の。  
 さやる。職功あり。このども。東國西國兩度。命を受て進發す。その旁あり。  
 小野わ。後。官位小ま。と。俸祿小ま。と。山所法あり。このども。と。さ。と。ける。折  
 小野官左大將實賴。郷山の。産小あり。忠平公の。乳色も。法。都。官。位。俸。祿。の。  
 その。身。の。忠。否。小。よ。る。所。忠。文。小。於。て。寸。功。と。す。所。あ。る。所。國。及。む。切。あ。る。者。小。恩。  
 賞。わ。ん。入。畢。竟。具。員。の。沙。汰。小。附。て。賞。罰。正。し。ら。ぬ。小。似。し。ら。ぬ。と。法。を。し。  
 の。ひ。り。と。て。師。補。さ。る。く。綱。と。盡。す。鏡。の。こ。も。國。入。る。竟。小。その。沙。汰。正。し。けり。  
 忠。文。と。は。國。及。び。て。る。あ。た。ま。を。將。小。擇。を。と。申。途。ま。を。進。發。せ。し。功。



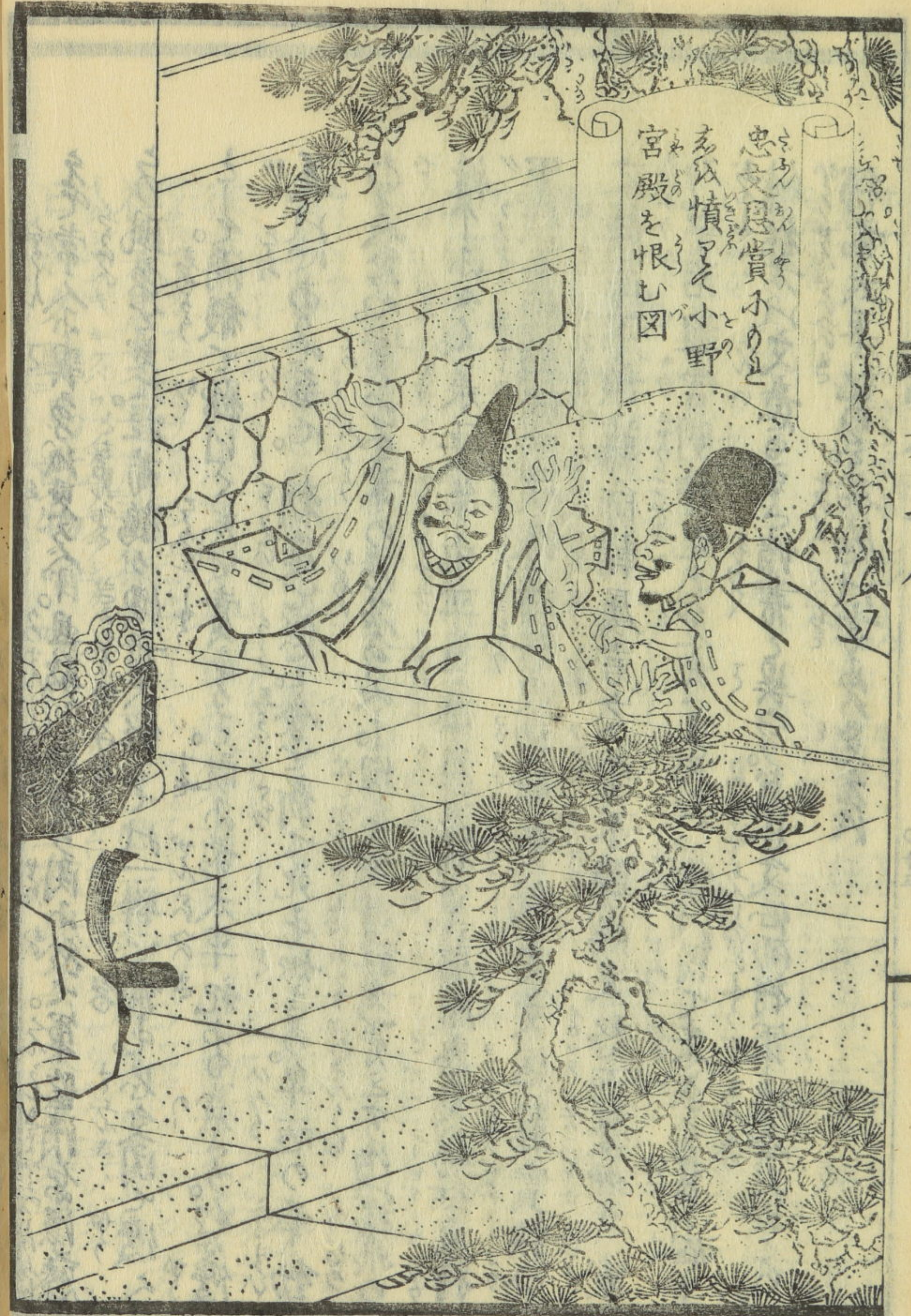
のことども同ト擇りて受て敵國の向ふ諸將の悉く賞小異り。若し人恩小  
 漏る。こと偏小野宮實頼卿の計らひあり。この恨をせしむるに忘るべからず  
 忽地大悪念を發し。兼明門の傍に大青声小直派罷り。小野宮の孫  
 こと永く九條教の奴婢とすべしと。諸君と握り發進して大お怒りのひしと千  
 指の爪甲小透りて鮮血極庭と流し。退教ありひしと。是より后會せ絶く  
 是より中とせ七日小。竟小果敢多きあり。是よりして小野宮教の作らるる論  
 中種との怪異多し。こと忠文が怨魂の多し。所之とありけし。その怨天と流  
 めん高。宇治の山小洞と建て。雜宮明神と崇めしより。崇りの更ふありけり。  
 金水柱る小。純友辨罰の事。諸書小載る如。事歴は異同あり。本文の  
 都て前太平記の說小從ひく。徳ととの事。嚴垣先生の國史畧あり。  
 天慶二年此條下小云。是歲秋阿波言。賊掠讚岐伊豫等國。

讚岐助國風奔淡路乃發諸國兵士分遣警固使既國風歸  
 讚岐舉兵進討純友敗走。行暴掠土藝周等國。又陷太宰府  
 征南海賊使小野好古。大宰大貳及慶幸大藏春實等。分兵  
 海陸相攻純友航海而走。急追之。擲炬焚其艦。艦燃衆潰  
 純友僅以身免。還伊豫。本國警固使橋遠保。高階誅之。斬首  
 函送京師。誅其子重太丸及餘黨。とある時。其事蹟。又と同ト。  
 細書文純友誅罰の天慶四年六月小。この說と差へり。又歴代備考法  
 案より。天慶四年六月とせり。本朝通紀。天慶二年此條下小。記其月と  
 關との事。次の條同ト。天慶四月。東西討使比勳功。賞其の文あり。  
 五月より。小野宮教を討つ。故小令其の兵同と。是の後の條。若し後  
 ○赤坂藤原忠文。朝庭の恩賞され。怨念を斷て死。洛中怪矣。









忠文恩賞小りと  
多公憤マを小野  
宮殿を恨む凶

春  
二  
三  
ノ



第廿三

亡卒の爲に法會を修せり

附

日藏の妖言一萬の卒塔婆を造る

再説諸大將の夜功ふりて東國西國悉く平定は諸氏弟歳を唱へける。帝元來佛乘小皈し。熟思ひ多ひけり。頃年東西の戦ひは官軍と多く遂に多く或ひの尸を山野に曝し。或ひは滄海の底に没して非命小死するもの數城知らざり。哀むるの極あり。況や亡卒維あつて。冥福成修せり。のち永劫阿鼻小墮在す。朕一天の君民の父母とてその惡報の苦報を救ひむらむ。へんむとて悉くも萬衆悉自ら觀音の像六鋪と圖繪し。法華修六部と書寫し。のひ順天慶又辛酉月廿八日。栢梁殿小於て一日の法會を修し。千人の僧綱を召て供養せしむ。ける有難き。別その日中頼文を捧らる。且其供養の別當後之位守大納言兼右近衛大将藤原朝臣師捕御の奉る所めて高らる。ふ

讀上らる。實や諸天善神也。忽地納受まりて修羅の池小迷ひり。亡卒頼小

天上小生せんとも疑ひあり。と尊を覺えける。願文事長。十一月。本朝通記。在

興小三善清貫が所めて日藏といふあり。復宗宏才小く智徳備り。花洛東

寺小住しけり。一時頓小死して二十日を経て獲生る。斯七日藏緒小宿と

曰く。息絶ゆの間に忽地冥府小至る。將金峯菩薩頭を認めひ。宿と

把て地獄の景勢を見せり。恐怖る。是と窺ふ。刀山劍樹の内の更あり。紅

蓮大紅蓮阿鼻叫喚の若も見る。目も心昏迷し。綱を以て踏ふ

り。當下傍る。穢窟の中。小その形。炭の如くある。四人並居て中央あり

人。有。小獅の衣を覆へり。獄卒日藏小告てい。是のことは汝が中。の君之中に

衣を覆ひ。延喜の帝。裸形あり。之の朝。小は元。悔人。小入。頼。奉。つ。く

福。大。一。と。の。小。日。藏。恐。惶。と。か。の。穢。窟。の。傍。へ。け。け。の。衣。を。覆。ふ。の。人。頼。り。小



日藏ひかくなり。招まねき。君きみの目めを延のび喜よろこ帝みかどあり。かの天政てんせい天神てんじん。菅相すがさへた逆さかの怨うらみを以もつて。日ひを小こ崇たかり。佛ぶつ寺てらを焼や有あ情じやうと害がいを。あまごの彼か宿しゆく世せの善ぜん行ぎやう功こう徳とくあり。小こ國くにて今いま太た威い徳とく天神てんじんとあり。その罪つみ業ごふ小こ異いらむ故ゆゑふその罪つみ報むかひを悉ことごとく朕みづかが身み小こ受うて是こゝろのどこの量はかりれ若ごとくあり。汝なんぢを國くに小こ歸かへる小こ重おもく。その由よしを奏そう聞きは。一ひと糸いとの事こと都みやこの安やすと遠とほり。よかろの若ごと親おやと接せふ。ありと聞き畢はらる間ま小こを。後あとの理ことわりさる如ごとく小こ獲と生なぬと。結むすむ。是こゝろを聞きける人ひとの心こゝろを寒さむく。魂たまを消くす。日ひ藏かく又またあり。あつこの事こと然しかの。七なな具ぐ小こ奏そう聞きあり。さうし。帝みかど甚ことごとく信まこと用もちあり。一ひと萬まんの辛から都みやこ安やす。逆さかをせしめ。且かつ諸しよ寺てら諸しよ山さんの貴き僧そう小こ保たもせ。法ほふ華け經きやうと真まこと續つづせしめ。專まことり。前まへ帝みかど追お福ふくの修しゆめ。依より。あひける。傳つたへ。元もと享かう統とう書しよ日に藏かくが。是こゝろ天あま慶けい六年ごねん二月にがつあり。按おず。小こ月つき藏かくが。言こと愚ぐ昧まいの鄙ひ俗ぞくも。欺あざむく。く。む。況いはや。天あま子こ宰さい輔ほの。居いる。と。然しか。是こゝろの事こと信まこと用もちせし。ま。そ。その妖まじ言ことを。罪つみせし。ま。さ。る。實まこと小こ藏かくが。

傲あう倖しやうあり。東とう園えん先せん生せいの。事ことと。結むすり。且かつ歎なげむ。の。多おほく。奸かた僧そう射しや利り奏そう妖あや言ごん。誣しよ聖せい主しゆ不ふ恭きやう亡わう禮らい無む忌き彈だん如ごと是こゝろ罪つみ惡あく極ごく矣や。况いは謂い連れん坐ざ燒しやう寺てら。愈い益えき可か笑わら。凡おほ僧そう徒た所しよ言ごん。如ごと是こゝろ之こゝろ類るい畧りやく有あ知ち識し者しや。雖な童どう幼ごう知ち其その偽いつはり妄まが固こ不ふ足たり辨わ也や。而しか當あた時とき失あ刑けい。干かん日に藏かく故ゆゑ書しよ之こゝろ於お策さく以もつ顯あ其その罪つみ耳みみ。云いく。と。見みえ。る。然しかる。小こ性じやう昔むかし脚あし練れんが。傳つた藏かくと。七なな秋あき書しよ。小ここ。日に藏かく紀き。一ひとを。奏そう。上かみ。其その深ふかを。量はかり。その意い。欲ほ解とく。を。く。と。む。と。

第だい卅さん四し 村むら上かみ 帝みかど 御ご 即すなは 位ゐ

附つ 天あま神かみ 北きた野の 小こ 祀まつり 焉や

去さ 往かう 小こ 東とう 西せい の 賊ぞく 亡わう び 後あと 四し 海かい 一ひと 統とう 小こ 帝みかど 一ひと 緒よ 氏うぢ 報ほう 腹はら 一ひと 業ごふ せ 樂たの 性じやう 也や

養やしやう 小こ 聖せい の 神かみ 代しろ と あり 小こ け 然しか 小こ 當あた 今いま 朱しゆ 高たか 橋はし の 改かへ せ 懶なま 小こ 魚うしほ 也や

天あま 慶けい 九く 年ねん 四し 月げつ 十じゆ 三さん 日にち 自より 朱しゆ 雀せき 院いん 小こ 下した 居い せ め 一ひと 七なな 日にち 住すま 小こ 國くに 腹はら の







感下の。新小土木の功で起して不日小宮社で経営し別七條坊あり。此  
處へ徙り奉り。天満大自在威徳天神の跡で賜ひ祭祀最重あり。此  
後日小新あり。蓋天満宮の神事蹟の具象翁の天満宮放實小詳あり。  
ら小贅せむといども。北野へ鎮座の中實小於心聊異因あり。此の  
掲げ出と奉考小備ふ。

本朝通紀の。天曆九年春三月。以官相丞靈稱天満天神  
云々細注あり。初天慶三年。管靈託右京七條坊婢文子欲棲  
右近馬場其女甚賤不能造營。纔祠家側天曆元年始移  
北野。然其制甚卑畧。神靈在如無時。今歲神託近江國  
良社稱宜良種曰大内北野一夜生松千本。可建社於斯。以其  
所建社可崇天満天神。不幾一夜之間生數千株。松果如神

託於是朝日寺僧最珍與右京文子戮力爲造靈社。自是  
靈威日新。至天德三年右大臣師輔とある所。その靈き因とといども。  
天曆元年小野小移すのさ。良種の子小神託あり。千株乃松  
一夜小生かすと。右京太平記小見え。天曆九年の王城云々且當  
神法遠宮の令く官家よりの中河津と見ゆ。終る小通紀の説と云ふ。  
最珍と文子と力を戮せ。遠宮を其後天德三年小あり。降捕宮の  
再建する。何まら是る紙知く。歷代備考を按る小。北野へ鎮  
座の天曆元年の。同九年の千株松。一夜小生るとのを記し。  
故小の所と千本といふと見えたり。  
筒小の如く。右京太平記の説疎漏あると多し。菅神左近の怨も小  
同て。十六系八千の眷屬を率ひ風雷の災と降。或は法性坊の素小



湯。振指と嗜て火欄とあるを如まら。元亨釋書の流あり。せふの  
 離をとる。元儒既ふる。遠の聖賢の由心を知らざる  
 者。此証言あり。九月十二夜。筑紫。縁下。賜。待。意。張。の。を  
 今。朝。家。を。恨。ま。る。ぬ。証。と。す。と。辨。論。し。る。實。小。の。義。理。明。り  
 る。新。書。此。説。の。覺。束。あ。た。て。その。傍。掲。出。せ。し。例。比。作。者。が。因。恩。表  
 る。ん。然。と。ど。の。と。者。と。く。人。は。小。贈。炎。と。雜。劇。中。の。做。す。る。は  
 妄。誕。却。て。せ。ふ。は。ま。り。ぬ。後。小。於。て。童。蒙。雅。女。等。の。管。公。筑。紫。は。天。孫  
 山。の。書。を。天。帝。人。捧。げ。け。竟。小。雷。と。あ。つ。く。内。裡。に。悔。の。清。貫。希。世。せ  
 震。死。せ。む。の。偏。小。管。公。は。折。あり。と。食。一。般。小。心。得。て。節。操。守。留。不  
 双。び。る。は。忠。貞。此。賢。者。と。の。と。と。怨。と。下。流。虐。々。暴。疾。无。道。乃。是。小  
 比。ま。の。い。と。歎。り。か。さ。ら。ん。や。故。亦。今。その。論。と。奉。て。童。蒙。小。知。し。め。ん。と

平林  
 竹。謂。老。婆。心。あり。の。あり

松。苗。巖。垣。義。祖。嘗。著。管。公。為。雷。辨。曰。世。傳。管。公。遠。竄。實  
 非。其。罪。公。不。勝。積。憤。及。薨。為。雷。霹。塵。皇。宮。余。謂。此。所  
 謂。齊。東。野。人。之。語。不。可。信。者。也。夫。驕。泰。怨。尤。者。小。人。之  
 常。情。已。管。公。決。不。然。矣。凡。事。君。者。致。身。竭。忠。固。其。分。也。  
 以。罷。辱。易。操。庸。人。猶。或。不。忍。為。而。况。賢。者。哉。管。公。決。不  
 然。矣。蓋。公。在。宇。多。朝。也。以。命。世。之。才。得。聖。主。之。遇。位。至  
 三。台。職。兼。文。武。入。臣。之。榮。既。極。矣。而。公。益。蕭。恭。未。嘗。有  
 以。專。權。聞。也。及。醍。醐。即。位。讒。人。乘。間。熒。惑。主。聽。遠。致  
 廢。黜。時。命。適。然。然。公。學。究。天。人。識。朗。窮。通。何。怨。尤。之。有  
 且。余。嘗。讀。公。在。西。海。所。作。詩。深。致。尊。君。之。意。絕。無。怫







